

分科会：社会的インパクト投資のファイナンス手法 3.社会的インパクト評価

2/20 14:30-16:00

株式会社キュア・アップ 取締役 COO 宮田尚氏

一般社団法人ソーシャル・インベストメント・パートナーズ 共同代表理事 白石智哉氏

モデレーター：社会的インパクト評価イニシアチブ事務局 鴨崎貴泰氏



※左から宮田尚氏、白石智哉氏、鴨崎貴泰氏

2月20日（火）の14:30より、「分科会：社会的インパクト投資のファイナンス手法 3.社会的インパクト評価」が開催された。登壇者は、株式会社キュア・アップ 取締役 COO 宮田尚氏と一般社団法人ソーシャル・インベストメント・パートナーズ 共同代表理事 白石智哉氏、モデレーターは、社会的インパクト評価イニシアチブ事務局 鴨崎貴泰氏で行われた。

日本における社会的インパクト評価推進のためのロードマップ

まず、モデレーターの鴨崎貴泰氏から日本における社会的インパクト評価推進の現状について2016年6月に設立された「社会的インパクト評価イニシアチブ（SIMI）」と2020年までのロードマップの解説および具体的なアクションについて報告があった。

社会的インパクト評価を事業改善に活かす

株式会社キュア・アップ 取締役 COO 宮田尚氏から事業者にとっての社会的インパクト

ト評価の必要性和具体的な手法について解説があった。同社では、アプリを利用した禁煙プログラム（ascure）において厳密な社会的インパクト評価を実施している。宮田氏は、事業者が適切に評価を行わないことで、効果のないプログラムが続けられてしまうことや、成果を過大に評価してしまう可能性を指摘した。また、同社では、事業評価の結果をもとに複数年にわたり事業のPDCAを回すことで、プログラムの制度を高めている取り組みについても紹介があった。

インパクトを求める資金提供者

一般社団法人ソーシャル・インベストメント・パートナーズ 共同代表理事 白石智哉氏から日本初のベンチャー・フィランソロピー基金「日本ベンチャー・フィランソロピー基金（JVPF）」の説明と、支援先と一緒に実施している社会的インパクト評価の事例について解説があった。社会的インパクト投資を行う資金提供者としては、売り上げや利益よりも社会的インパクトの最大化を重視し、それを可能な限り定量的に科学的に明らかにする評価の重要性について話があった。

後半のパネルディスカッションでは、改めて社会的インパクト評価の目的である①説明責任を果たす②事業改善に活かすという2つの観点で、登壇者がどのように事業の中で評価に取り組んでいるかについてディスカッションが行われた。宮田氏からは、厳密な評価を自らに課すことで、外部からの信頼を得られ事業改善に対する自分へのプレッシャーをかけられる利点に言及があり、事業成長のために評価に取り組むことの必然性について改めて言及があった。

白石氏からは、投資先と目指すべき社会的インパクトを合意し、その達成に向けた支援を行うための工夫として「ミッションロック（社会的なミッション以外の事業を行なった場合は投資契約を破棄する等の条項を入れる）」や「アセットロック（数年は投資家への配当を事業への再投資に充てることのできる条項を入れる）」等の解説があった。また、目指すべき社会的インパクトやそれを達成するための戦略、KPI設定について経営者とのみ決めるのではなく、スタッフとも共有しながら作っていくプロセスの重要性について言及があった。

最後に、社会的インパクト投資における社会的インパクト評価の意義として、事業者の思いや目指すべきミッション、社会的インパクトを資金提供者（外部）や社員（内部）と共有し、一緒に事業成長を目指すツールとして評価は有効であるということを確認してセッションは終了した。

以上